

論文内容要旨

論文題目

術前から術後 1 年間の縦断研究による前立腺全摘除術患者の
一般性自己効力感の推移および QOL・日常生活体験との関連

教育・研究領域： 生涯生活支援看護学

氏 名： 川口 寛介

【内容要旨】

本研究は、前立腺全摘除術患者の一般性自己効力感（General self-efficacy；GSE）の推移と QOL および日常生活体験との関連を明らかにすることを目的とした。前立腺全摘除術患者を対象に術前、術後 1・3・6・9・12 カ月に自記式質問紙調査を行った。主な評価項目として、GSE 評価尺度：GSES、前立腺がん特異的 QOL 尺度：EPIC、包括的健康関連 QOL 尺度：SF-8 を用いた。また、日常生活体験としてインタビュー調査に基づいた患者の具体的な体験内容について評価した。

GSES は術後 1 年間で有意に上昇した。GSES 高群は GSES 低中群に比べ、術後の EPIC および SF-8 のスコアが有意に高かった。また、GSES と日常生活体験との間に有意な関連を認めた。

これらの結果から、GSES が EPIC、SF-8 および日常生活体験と関連することが明らかとなった。GSE が術後の QOL および日常生活の回復に関連することが示唆された。

令和 2 年 1 月 9 日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学 位 論 文 審 査 結 果 報 告 書

申請者氏名： 川口 寛介

論文題目：術前から術後 1 年間の縦断研究による前立腺全摘除術患者の一般性自己効力感の推移および QOL・日常生活体験との関連

審査委員：主審査委員 齋藤 貴史

副審査委員 佐藤 幸子

副審査委員 佐藤 和佳子

審査終了日：令和 2 年 1 月 8 日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

前立腺がん患者では、前立腺全摘除術により良好な生命予後が期待されるので、術後機能障害による患者の Quality of life (QOL) 低下の防止が課題となる。一般性自己効力感 (General self-efficacy: GSE) は、前立腺全摘除患者の行動や感情を統制する有効な心理的要因とされる。本研究の目的は、術前から術後 1 年間の前立腺全摘除患者における GSE の推移を前向きに明らかにし、GSE と関連する患者 QOL の内容を解明することである。

対象は前立腺全摘除術を受けた前立腺がん患者 114 名。術前、術後 1, 3, 6, 9, 12 ヶ月に自記式質問紙調査を行った。GSE の評価尺度として GSE score (GSES)、QOL の評価尺度として、前立腺がん特異的 QOL については Expanded prostate cancer index composite (EPIC)、包括的健康関連 QOL については SF8 health survey (SF-8) を用いた。また、日常生活体験の評価は、既報 (川口他、2016) に基づき具体的行動および感情 17 項目より構成されるインタビュー調査を得点化して行った。GSES は合計得点を基に高群 (>11 点)、中群 (9~11 点)、低群 (<9 点) に分類した。GSES と EPIC、SF-8 および日常生活体験との関連を検討した。本研究は山形大学医学部倫理審査委員会の承認を得て実施された。

データ解析が不可能であった例を除外して、最終的に 104 名が解析された。GSES は、術前平均 10.1 点から、術後は漸増し、6 ヶ月以降は術前値に比し有意に上昇し術後 12 ヶ月時点では 11.0 点となった。相関分析により、GSES 合計得点と EPIC 排尿領域スコア、SF-8 身体的健康サマリースコアおよび精神的健康サマリースコアとの間に有意な相関を認めた。GSES 高群と低中群では、共分散分析により QOL に差があることが判明した。即ち、EPIC 排尿領域スコアでは、GSES 高群では低中群に比較し、術後 1, 3, 6 ヶ月において排尿スコア・排尿機能スコア・尿失禁スコアが、術後 1, 9 ヶ月において排尿負担感スコアが、術前に比較して有意に高かった。SF-8 サマリースコアでは、GSES 高群では低中群に比較し、術後 6 ヶ月において身体的健康サマリースコアが、術後 1, 3, 6 ヶ月において精神的健康スコアが、術前に比較して有意に高かった。また、GSES と日常生活体験スコア項目に関連を認めたが、具体的に、「旅行に行く」、「オムツ・パッドを使用することで安心する」、「オムツ・パッドの使用が情けない」、

「手術や治療の不安がある」、「再発の不安がある」、の5項目が関連していた。以上より、GSEが前立腺がん特異的QOLの排尿領域、包括的健康関連QOLおよび日常生活体験と関連することが明らかとなった。

本研究により、前立腺全摘除術患者には、患者QOLの向上を促進するため、術後6ヶ月程度までの排尿機能障害が発生しやすい期間において、GSEを高める支援の有効性が示唆された。また患者に対して行うべき重要な生活支援項目が明らかとなった。

本研究について、論文および口頭発表にて審査した結果、研究の目的が明確で、方法も妥当であり、結果には新知見が含まれ考察も適切であることから、本研究は学位論文（博士）として相応しいと評価した。